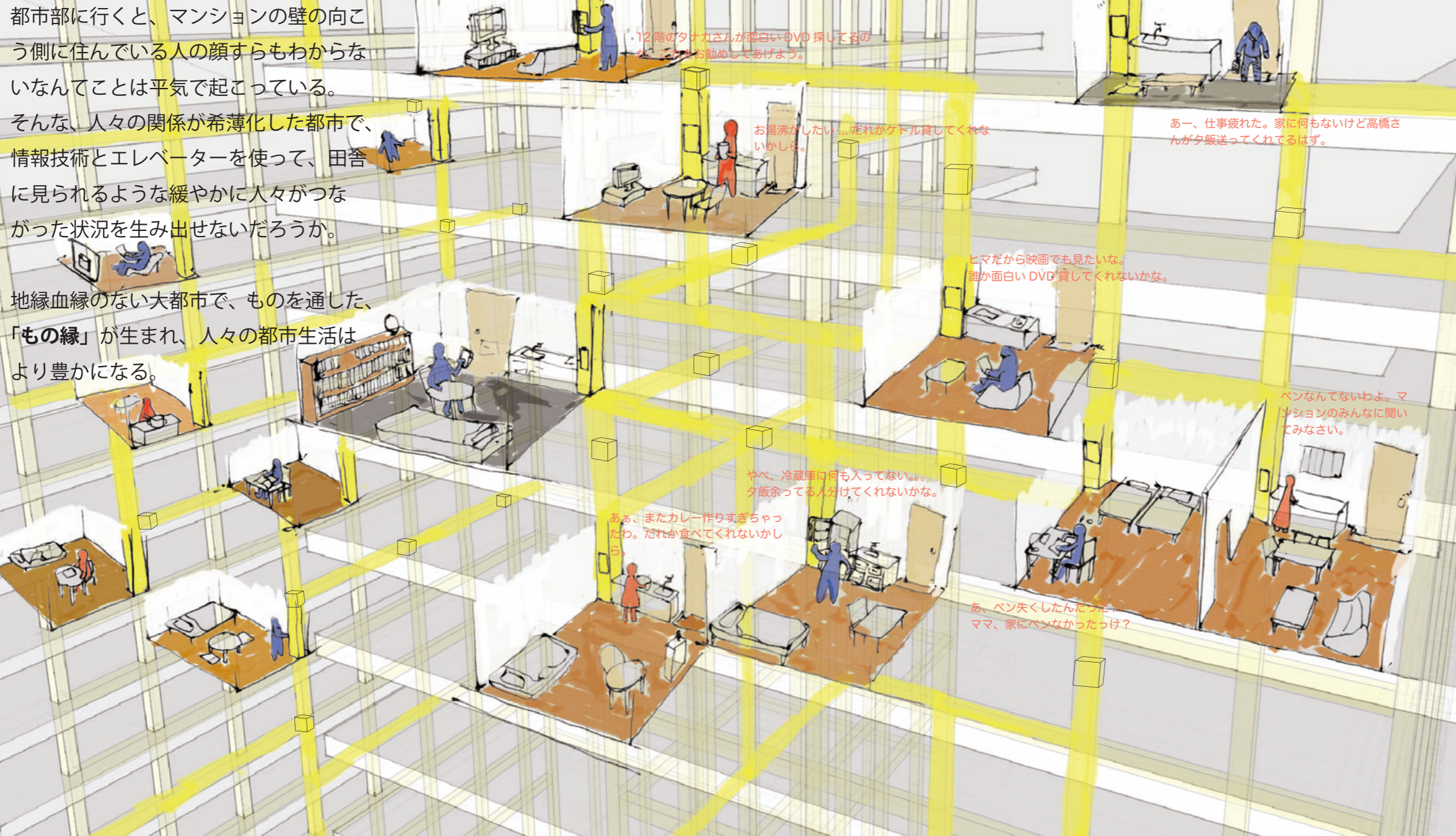


# もの縁マンション -モノから生まれるヒトの縁-

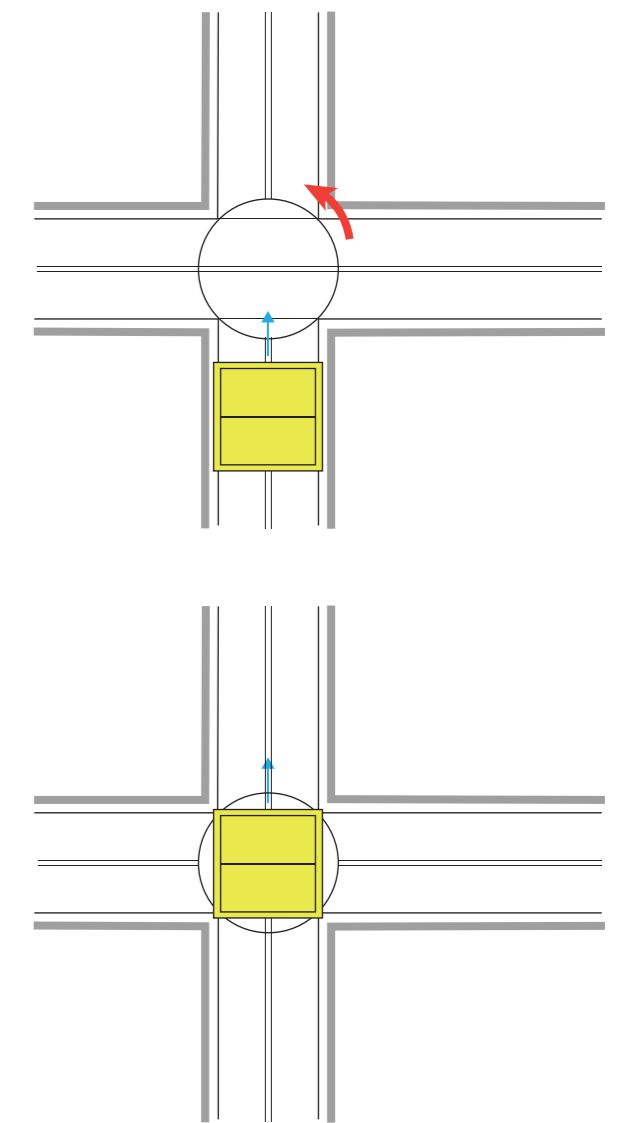
都市部に行くと、マンションの壁の向こう側に住んでいる人の顔すらもわからないなんてことは平気で起こっている。

そんな、人々の関係が希薄化した都市で、情報技術とエレベーターを使って、田舎に見られるような緩やかに人々がつながった状況を生み出せないだろうか。

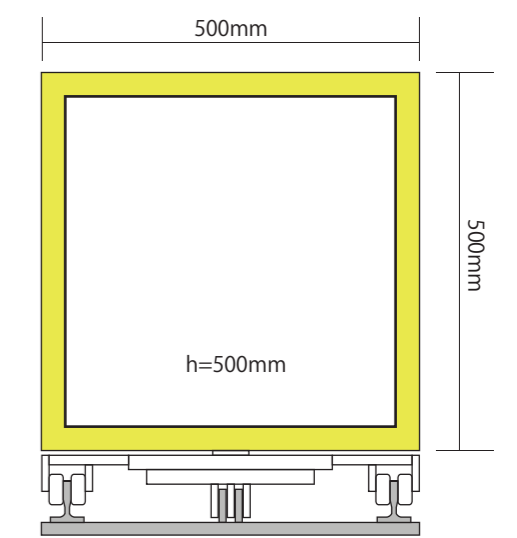
地縁血縁のない大都市で、ものを通した、「もの縁」が生まれ、人々の都市生活はより豊かになる。



## エレベーターシステム



▲エレベーターの上下左右の移動システム。結节点では、円盤が回転することで方向転換を行う。



▲エレベーター断面図。重量計測計をつけることで使用前と使用後の重量を測り情報として管理することも可能となる。

## もの縁マンションのシステム

日常生活の小さな問題や「もったいない」の発生

おしょうゆがねえ...

モノ・人・空間の情報化 (IoT)

mono-en

おしょうゆ

検索結果

	コッキーマン free/ml	貸して!
	コッキーマン 0.4円/ml	貸して!
	マヤサ 0.5円/ml	貸して!
	hanako 外出中	

ものエレベーターによる貸借リ

want!


have!

はやい!



### 1-1. 物々交換や貸借りによって成り立つ生活

高度に効率化されあらゆる場面において経済性が最優先される大都市では、何をするにも、何を得るにもお金が必要である。人々は、そのお金を得るために、日々仕事に追われ、せわしない日々を過ごしている。しかし、少し田舎の方に行ってみると、そこにはお金をほとんど使わずに生活している人々がいる。野菜を育てている農家はご近所さんに余った野菜を配り、野菜をもらった漁師の家は取れすぎた魚を農家にお返しする。お醤油が足りなくなったら、お隣さんに借りればいいことだし、いちいちスーパーに行ってお金を使う必要もない。そうやって人々は、モノの貸借りや物々交換でもって生活の一部をまかなっていて、そこには家族ではないが、他人とも言えないような、緩いつながりがある。



### 1-2. 都市部における、一般的なマンションやアパートの現状



・隣の住人の顔も名前もわからない。

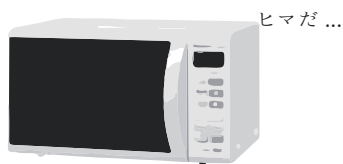


・同じ建物の中に住んでいても交わることのない人と人

### 1-3. 生活における「もったいない」

日常生活では、もったいないことがたくさんある。それらをうまく活かすことはできないだろうか。

#### 家電の「もったいない」



ヒマだ ...

使用時間がすごく限られていたり、ひいてはほとんど使われない家電もある。

#### 食材の「もったいない」



また半分残されてる ...

野菜や調味料は、買ったのはいいが全て使い切れないことがあり、それらは結果的に廃棄することになってしまう。

#### 本棚の「もったいない」



俺たちしばらく読まれてないよな ...

1度読んだ本が、本棚に眠ったまま二度と開かれないこともある。

#### 手料理の「もったいない」

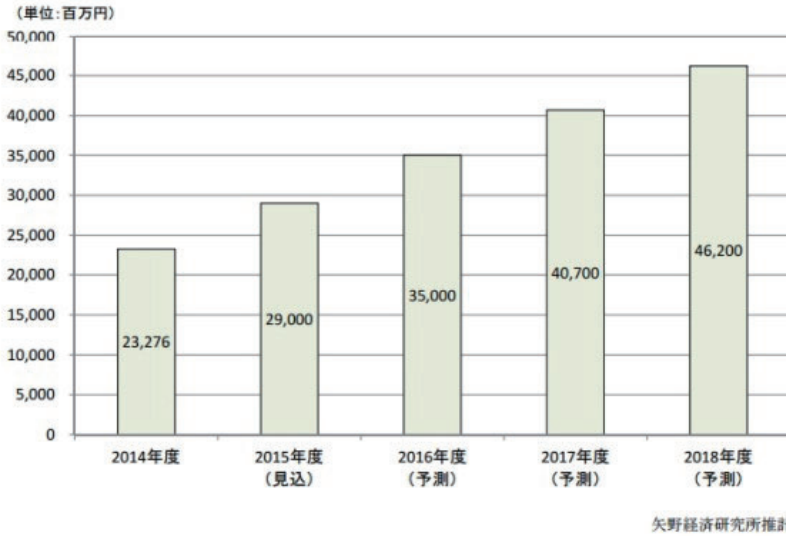


また作りすぎちゃったわ。どうしよう。

つい料理を作りすぎてしまうことがある。

2-1. シェアリングエコノミーの考え方

図 1. シェアリングエコノミー(共有経済)市場規模推移と予測



▲シェアリングエコノミー市場規模推移と予測 (出典: 矢野経済研究所)  
 シェアリングエコノミーの需要は確実に高まっており、10年後の2026年においては、さらなる普及が予測される。

ユーザー同士のモノの売買、物々交換



画像引用: ヤフオク!公式サイト <http://auctions.yahoo.co.jp>  
 メルカリ公式サイト <https://www.mercari.com/jp/>  
 Clip公式サイト <https://redclip.jp>

モノや車、空間の共有



画像引用: air Closet公式サイト <https://www.air-closet.com>  
 airbnb公式サイト <https://www.airbnb.jp>  
 タイムズカープラス <http://timescar.jp/plus/>

▲様々なシェアリングエコノミーサービス  
 ユーザー同士のやり取りとみんなでシェアするサービスがある。空間から車、最近では衣服のシェアサービスもある。

2-2. モノの情報化によって生まれる新しいシェアのかたち

マンション単位のシェアだからできること

シェアするモノのスケールは徐々に身体レベルに近づいており、直に食さえもがシェアされるだろう。そうなると近隣であることが重要になり、マンションという共同体はその条件に適している。

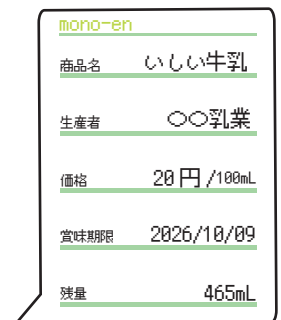


・所有物のクラウド化  
 マンションの住人は、自分の所有物の情報をクラウドに保存する。



・食材・日用品などのシェア

例えば、牛乳をシェアする時、牛乳が持っている情報(銘柄, 定価, 残量など)を元に、飲んだ分だけ料金が発生するシステムにすれば、飲みたい牛乳を飲める分だけ飲むことができ、つい買いすぎて賞味期限が切れて廃棄するといった心配がなくなる。



・貸借り、おすそ分け、物々交換

例えば、料理を始めてからお醤油が足りないことに気づいたとする。そんな時このシステムがあれば、アプリでマンション住人に問いかけ、所有者が見つければすぐにお醤油をエレベーターで送ってもらうことができる。もう一旦つけたエプロンを脱いでスーパーに出かける必要はない。

お醤油が足りないわ。



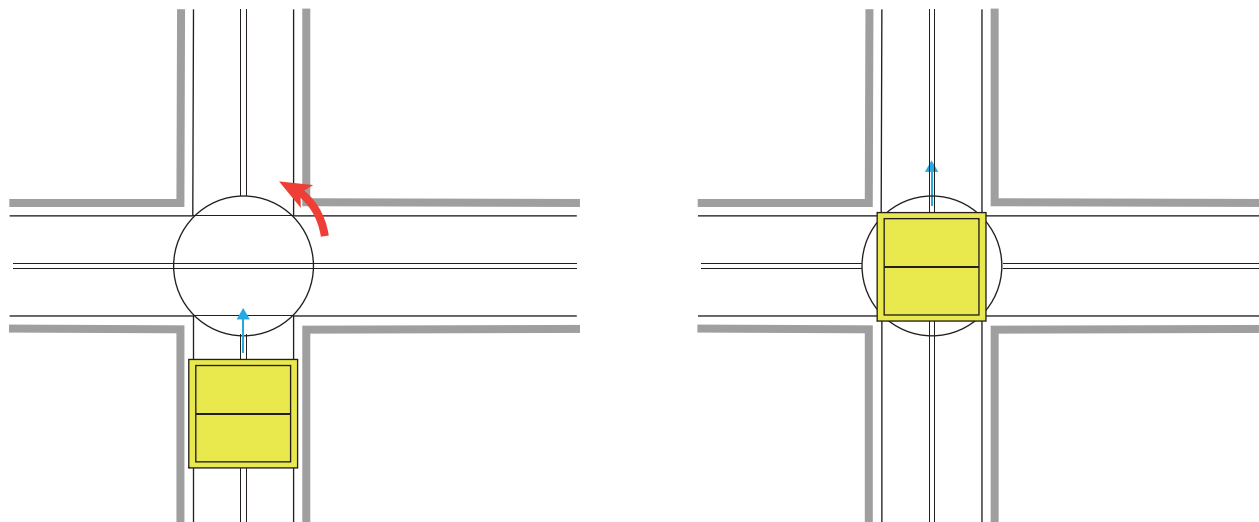
そんな時は mono-en で検索よ!



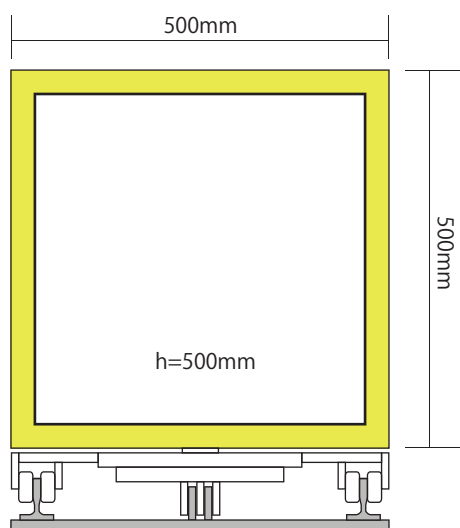
## 3-1. エレベーターシステム

## ・エレベーターの小型化、リニア化

現在、リニア式のエレベーターが開発されている。リニア式にすることによって、これまで垂直の移動しかできなかったエレベーターが水平移動も可能になり、エレベーターが持つ運搬能力は飛躍的に上昇する。今後さらに実用化に向けた開発がなされれば、10年後には建物内を縦横無尽に動き回る小型エレベーターの存在は夢ではない。



▲エレベーターの上下左右の移動システム。結節点では、円盤が回転することで方向転換を行う。

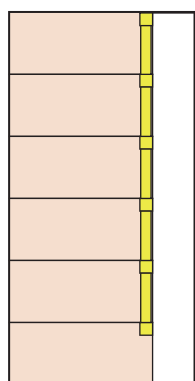


参考：東芝エレベーター株式会社「MagSus」  
<http://www.toshiba-elevator.co.jp/elv/technology/newtechnology/co02/>  
 thyssenkrupp「MULTI」  
[https://multi.thyssenkrupp-elevator.com/assets/pdf/multi\\_brochure.pdf](https://multi.thyssenkrupp-elevator.com/assets/pdf/multi_brochure.pdf)

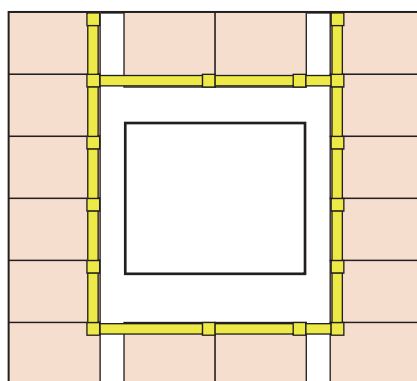
▲エレベーター断面図。

重量計測計をつけることで使用前と使用後の重量を測り情報として管理することも可能となる。

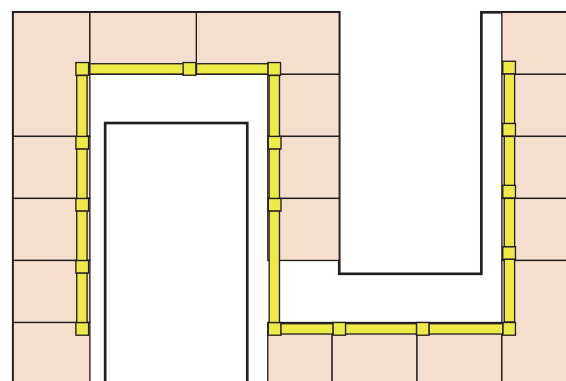
## ・建築物への応用



▲片廊下型マンション



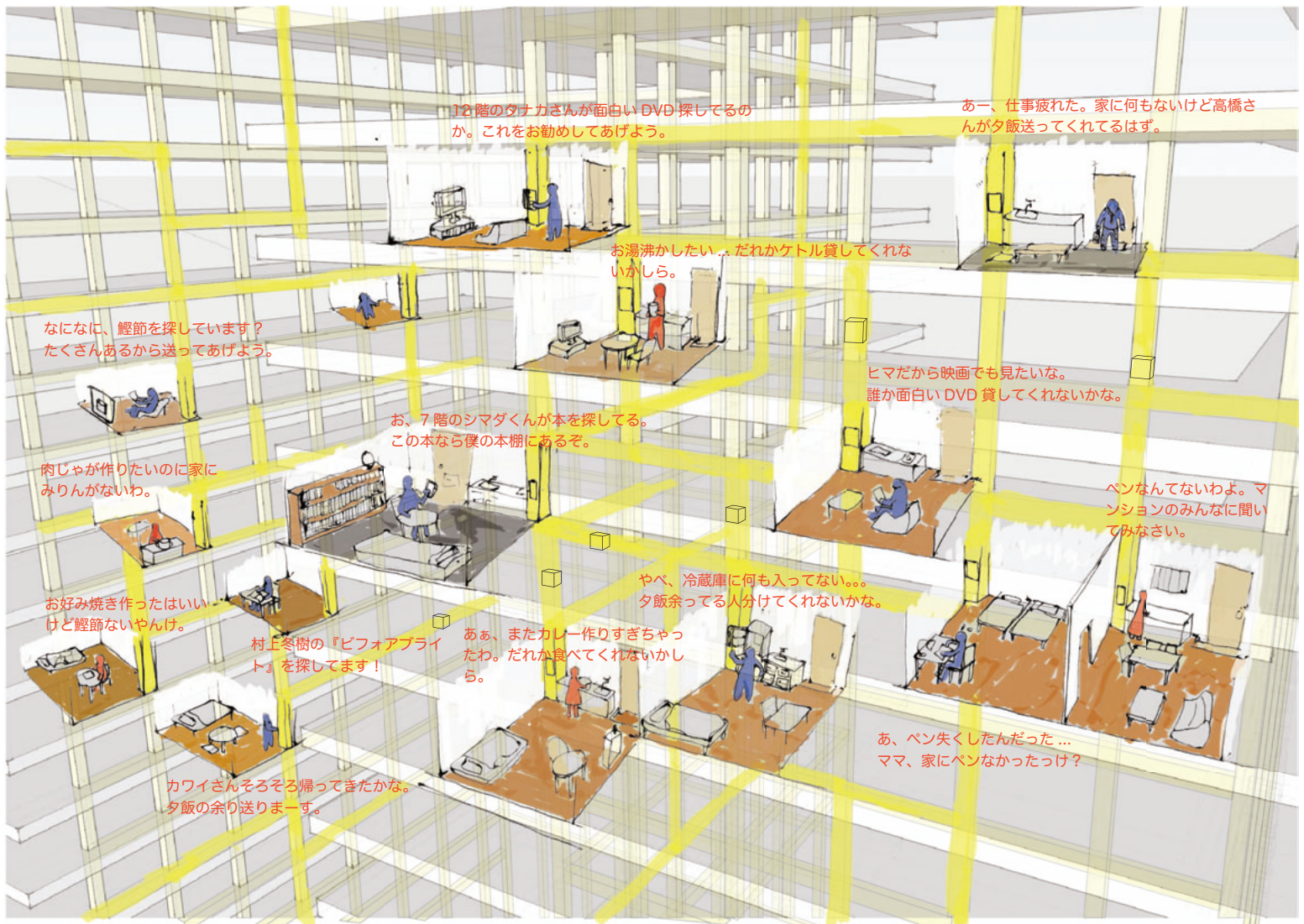
▲囲い型(タワーマンションなど)



▲S字型マンション

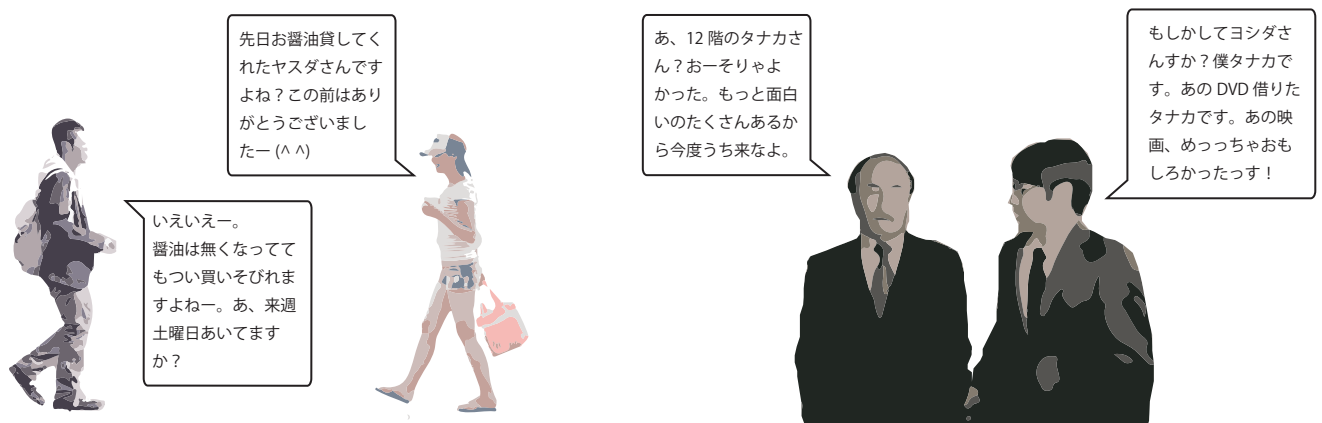


4-1. モノでつながる人々



4-2. モノからヒトへ

マンションの住人同士でやり取りをするから、はじめはネット上においてモノから始まった関係が、いつしか人と人との関係に発展していく。



4-3. 未来の都市生活

私たちは都市から逃れることはできない。都市は、自ずと効率性を追求するようになってきている。その大きな都市の流れに逆らうのではなく、その流れに乗っかるように最新の技術を駆使し、効率化を実現しながら、人と人のつながりという私たちが2011年以降意識せざるをえなくなったものの重要性に気づき、人々の都市生活がより豊かになる方法として、この案を提案したい。